

神奈川県立こども医療センターオレンジクラブ



ボランティアニュース

233号 2023年5月号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦興

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

ワークショップの日々

アートワークショップグループメンバー 豊田 章士

絵画ワークショップの子供地球基金です。

コロナ蔓延以前は病棟に入り、水彩絵具と筆を使い大きな絵を描く機会も多く、色を愉しむ皆の姿が印象的なワークショップでした。

ここ3年は1階渡り廊下にて、水性クレヨンを使い、絵を描いております。廊下には、通院中など通りすがりの子どもさん達が、思わず描いてみたくなってしまう大きなガラスが待ち受けています。1時間余りの活動ですが、興が乗れば時を忘れて没頭しています。

描く楽しみ、、観る愉しみ、、絵を描くことが自分の心を拓けるきっかけになり、誰かを愉しませている。サポートされたりサポートしたり、、私もおんなじ気持ちで参加しています。

Kids helping kids、、、子供地球基金の願いです。

現在もウクライナへ、トルコへ、紛争、災害地へ、子供地球基金の代表が足を運び、現地の事情を踏まえた上でワークショップを開催しております。

病の中に居る子、紛争の地の子、乾いた地の子、どの子供たちにも自分の望を叶えられる世界が訪れますように。地球環境が健やかで、それぞれが水と食と安住の地を持てますように、心から祈り、欲張ってしまう私です。



外来ボランティアの活動

病院の正面玄関で案内などの活動している外来ボランティアは現在 17 人です。月 2 回の方もいれば毎週 2~3 回の方もいます。コロナ前には 30 人以上おりましたが、今はお休みされている方も多くいます。活動内容は、案内やベビーカー利用時のお世話や消毒、車の乗り降り時のお世話や見守り、迷子さんへの対応や本箱の整理等。そしてお子さんたちに、がんばったご褒美にと、折り紙作品を差し上げています。今回は 4 人の方に寄稿して頂きました。

ボランティアコーディネーター 加藤

出迎え、見送りの日々

外来ボランティアリーダー 吉澤伸明

ドラえもんは、ときどきすごい力を見せる。玄関を入ると不安で泣き出すこどもが突然、にっこり。指にはめてもらおうと、一緒に飛び立つようなしぐさをする。もう大丈夫だ。ここはこわいところじゃないよ！

毎日同じように大勢のこどもたちが来るが、出来事は日々少しずつ違う。晴れの日、雨の日、風の強い日。季節により、同じこどもの顔が違って見えてくる。そこに立ち会う外来ボランティアも、小さな出会いを大切に感じるようになり、気持ちを新たにします。

あるとき入院する親子の荷物をもって、一緒にエレベータで病棟階へ。大きなぬいぐるみを抱えて少し寂しそうな顔。お母さんが、もう何回か入院しているのですよとつぶやく。何か声をかけようとしたが、言葉が出てこない。入り口についたら、看護師さんが〇〇ちゃんと呼びかけてくれて、子どもの顔にパッと明るさが差した。

季節になると壁にたくさんの短冊が結んであり、その文字を読む。ときに胸がつかえ、その前を向く力の強さに打たれる。

こども医療センターでの外来ボランティアの毎日は続く。

ボランティア活動 10 年を振り返って

外来ボランティア 齊藤則尚

ボランティアニュース掲載は 2019 年 7 月号に続いて、今回で 2 回となります。前回は 5 年のボランティアを振り返りましたが、今回は 10 年の振り返りになります。現在は木曜日に外来ボランティアとして活動しています。コロナ感染はどのボランティアの方にも少なからず影響を及ぼした経験のない出来事でした。私もコロナ禍でボランティア活動を卒業することも考えたこともありました。

しかし活動自粛をしながらも何とか継続することが出来たことは、患者さん、ボランティアコーディネーターの加藤さん、ボランティアの仲間（学生ボランティア、ファシリティ・ドック）、病院職員の存在があります。とりわけ、患者さんやその家族との関わりはボランティア活動の原動力になります。ほとんどの患者さんとは一期一会の関わりですが、それでも挨拶や言葉を交わし、お手伝いをしたりすることが、少しは役に立っているとの思いで、医療センターに足を運んでいます。

自身が活動を始めた間もない頃から木曜日に定期的に通院されている男子の患者さんがおられます。その方とは何気なく声を掛けたりして、挨拶をしていました。発語はありませんが、とても表情豊かなジェスチャーと目でコミュニケーションを取ってくれます。活動日にはその患者さんのことが気になり、今日も元気に通院しているか院内を見まわしてしまいます。その方のお母様とも次第に面識ができ、今ではお子様の体調や成長の話をすることもあります。現在は小学 6 年生になり、車椅子で通院されていますが、成長していく姿を見ると本当に生命の強さを感じ、勇気やエネルギーをもらいます。

活動年数としてはまだまだ先輩ボランティアの方達には及びませんが、次の 5 年を目標に、自身のためにも体調を管理し、引き続き「無理せず、楽しく」をモットーにボランティア活動を続けていこうと思います。早く活動に制約がなくなり、素顔で患者さんに接することが出来る日が戻ることを願っております。

子どもたちへのごほうびの折り紙

山田 はな江

桜の花が咲いているのに、冷たい雨が降っている 3 月末のある朝の活動時です。診察券の受付をする再来機の不具合が発生、またたく間に患者さんの列となり医事課の方の判断で総合受付や各科受付にご案内をすることになりました。幸い 1 時間ほどで復旧しましたが、とても緊張したひとときでした。

外来ボランティアの活動は、一日一日が同じではなく、前述のようなこともあれば、嘔吐の処理もあります。でも、何よりも外来活動を通じて子どもさんとのふれあいや、頑張っているお母さんたちとの出会い等が、自分自身の暮らしに欠かせない心の栄養となっていると感じています。

なかでも子どもたちへのごほうびの折り紙は、コロナ禍前は一つ一つ選んでもらっていましたが、昨年二月からは時計や指人形、指輪などを袋詰めして診察を終えて帰る子ども達に「お家で開けてね」とお渡しする方法をとっています。

「ありがとう！」と大きな声もあれば、耳元で恥ずかしそうに伝えてくださる子ども達もいます。ある時は白杖を持ったお嬢さんとお母さんがボランティアコーナーに訪ねて来られ、「まだ弟が小さかった頃、ここでいただいた折り紙で遊ぶことが出来、とても助かりました」とお礼に来てくださいました。

外来にいる私はその声を感じることができですが、子ども達の笑顔を想いながらバッグや時計、カエルなどを折って、大きな袋にたくさん提供して下さっている「作業グループ」や他のグループの方々に、その声が届くと良いなといつも思っています。本当にありがとうございます。



(写真左) 折り紙作品を袋詰めしている山田さん (写真右) ボランティアコーナーの綾部さん

ボランティアをして嬉しい事

綾部 敦子

こども医療センターでボランティアを始めた頃、若いお母さんで二歳の女の子のお子さんを亡くされた後ボランティア活動に来た方がいました。一緒に入り口の所に居た時『亡くなってしまうのなら嫌がる痛い注射を受けさせなければ良かった』と泣いていました。その方は、その後病気の

お子さんをお持ちのお母さんたちの話を聞くボランティアさんになりました。

最近ご夫婦で病院へ来る方が多いです。お父さんだけでお子さんを連れてくる方も沢山います。ご夫婦で話し合って子育てされて素晴らしいと思います。お母さんや妊婦さんは皆美しいですし、お父さんたちも頼もしいです。毎週来るたびに元気になります。ボランティアは楽しいです。

ぽぽんた通信 (60)

4月は、新看護師さん達が科長さんに病院内を案内してもらっている姿がとても清々しくて、そして頼もしい。3月に図書室司書さんが他の部署に異動になり、次の司書さんが4月になっても着任していないので、職員さん1人でとても忙しそう。ぽぽんたのメンバーは、本の貸し出しと返却の手続きを自分たちで出来るように練習を始めた。

図書室職員のSさんは、私たちに判るように一人ひとりに手引書を作って下さった。

ぽぽんたのメンバーは、それぞれ当番日は定時の1時間前に集合して、Sさんの指導で、パソコン入力から、バーコードの読み込みを実習をしている。既に取得した人がほとんどで、ぽぽんたのメンバーの頼もしさを感じる。

コロナ感染症の収束で、本の貸し出しと病棟での対面おはなし会が再開できそうだ。各病棟のプレイルームで1家族、ぽぽんたのメンバー1人 10分間のおはなし会だ。

現在、ZOOM おはなし会はベッドサイドで定着している。ZOOM おはなし会と対面おはなし会で、入院中の子ども達に楽しい、嬉しいを届けたい。



(写真は5月24日3年半ぶりの対面活動)

第49回ボランティア研修会のお知らせ

当センターでのボランティア活動を広く知っていただき、病院でこどものためのボランティアを志す方々に役立てていただくために、下記のように研修会を開催いたします。ボランティア活動を始めようと思われる方、また現在活動されている方もご参加ください。

日時：2023年6月26日(月) 13:00~15:30

会場：神奈川県立こども医療センター 講堂

内容	・こども医療センターにとってのボランティア	センター事務局長	八尋有造
	・センターの感染対策	感染制御室	横谷 チェミ
	・当センターのボランティア活動	オレンジクラブ代表	三木 美雪

詳細はHPをご覧ください。



写真は、3年半ぶりに HCU2 病棟でパフォーマンスをするホスピタルクラウン。お子さんお一人に 5分ほどの対面活動。ほんのひと時が笑顔いっぱいの楽しい時間になりました。

《6月の予定》

6月3日(土) メリーゴーランドがやってくる?! (正面玄関)

6月6日(火) ボランティア運営会議

6月26日(月) ボランティア研修会